

輸血部ニュース

発行：広島大学病院 輸血部

編集： 輸血部長 藤井輝久

内容に関するお問い合わせ：

5581（輸血部長室）または teruchan@hiroshima-u.ac.jp

清秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。輸血部の提案に対し、皆様のご協力により徐々に成果が実りつつあることを含め、輸血部ニュースを発信させていただきます。今後も安全かつ適正な輸血療法およびアルブミン使用の推進に努めていきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

（輸血部助教 山崎）

初めて Alb/RBC 比が 2 を下回りました！

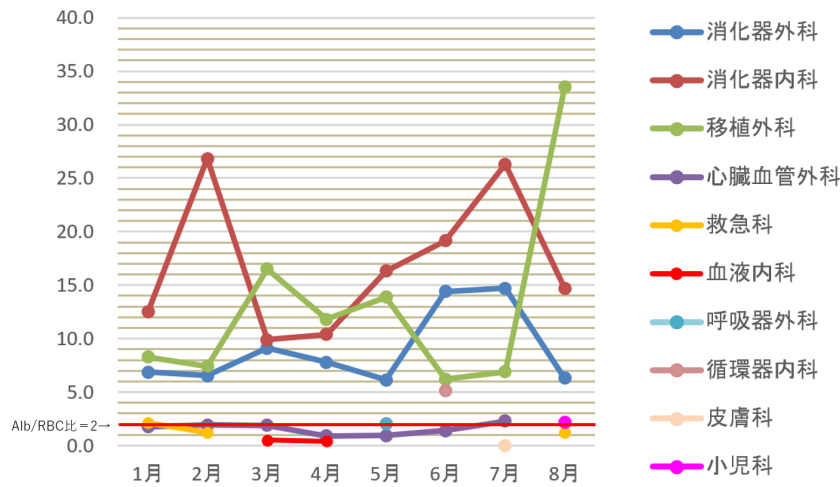
Alb/RBC 比って何ですか？という方も多くいらっしゃると思いますので、まずは Alb/RBC 比について説明します。この比は「輸血適正使用加算」を取得する上で非常に重要です。もしも本院で取得できれば約 2500 万円のプラス収支になる試算を提示しました（詳細は輸血部ニュース 17-vol. 4 に載せてありますので、ぜひそちらもお読み下さい）。この比の計算方法としては、アルブミン製剤使用量(g) ÷ 赤血球濃厚液使用量(単位)です。本院において赤血球濃厚液使用量が今後も大きく変化することはないと考えると、Alb/RBC 比 < 2 とするためにはアルブミン製剤使用量を抑えていかなければいけません。そして、この比が本年 8 月にお

いて「1.95」と初めて 2 未満を達成できました！ これは皆様のアルブミン製剤の適正使用の意識が徐々に芽生えてきたのか、はたまた輸血部の小言が効いたのかは定かではありませんが、とりあえず喜ばしいことです！ この 1 回限りでは病院の利益への貢献はほとんどありませんので、Alb/RBC 比 < 2 が当たり前になるよう、今後もアルブミン製剤の適正使用をよろしく願いいたします。あくまで私たちは適正使用を推進する立場ですので、適正使用にて Alb/RBC 比 > 2 となる場合は、一切小言をいうつもりはありません。現在の Alb/RBC 比上位 5 科を表 1 に示します。



Alb/RBC < 2

表1 Alb/RBC 比上位 5 科



新鮮凍結血漿製剤融解後の使用期限が変わりました。

2018年9月26日より新鮮凍結血漿製剤 (FFP) の融解後使用期限が変更されました。変更点を下にまとめましたのでご確認ください。なお、詳細に関しては、日本赤十字社ホームページにてご確認ください。変更後の文言に「直ちに使用できない場合は2~6℃で保存」とありますが、これはあくまで輸血部などにある温度管理を行っている輸血専用保冷庫における話であり、各病棟にある冷蔵庫は、輸血専用保冷庫ではありませんので、不

可であることにご注意ください。ですから、現場での保管は現状通り、となりますので、ご周知をお願いいたします。輸血用血液を輸血部にて受取り後、すぐに使用できなくなった場合には、お手数ではございますが、輸血部へ返却するようお願いいたします。どんな短時間であっても、安全面から使用不可・転用不可となります。

「血液製剤は札束！札束は金庫(輸血部)に保管！」との意識をお願いいたします。

＜変更前＞

融解後3時間以内に使用すること。



＜変更後＞

融解後は直ちに使用すること。直ちに使用できない場合は、

2~6℃で保存^{※1}し、融解後24時間以内に使用すること。

〔※1 各病棟にある冷蔵庫での保存は不可。

高度救命救急センター等に設置の温度管理可能な冷蔵庫での保存は可。〕